

1 はじめに

大洲市立平小学校の校区は、大洲市の東部、神南山の麓に位置し、古くから米作等の農業生産の中核地帯でした。大洲道路開通（平成5年）、高速道路延伸（平成12年）等により、交通の要所となり、それに伴い、校区の北側国道沿いには大型商業施設・事業所等が次々と立地し、住宅地域が広がりました。このように、自然豊かな丘陵地帯と田園地帯、新興住宅地が入り交じる環境の中で子供たちは元気に育っています。一方で、この地域は度重なる洪水被害を被ってきました。平成30年の西日本豪雨災害でも大きな被害を受け、当時の本校児童も75名（約31%）が被災したとのことです。



今年度は、「学校防災教育実践モデル地域研究事業拠点校」の指定を受け、防災センターや大洲河川国道事務所、地域の団体等と連携した防災学習を推進してきました。振り返ると、管理職になってから、防災教育に携わることが多くありました。その都度考えていたことが、防災教育を通じて地域とのかかわりを深めるということ、そして、生涯にわたって地域に愛着を持ち、地域に貢献しようとする児童を育てるということです。これまでの実践の一部を紹介させていただきます。

2 これまでの防災への取組

(1) 「南予津波災害等自助・共助推進事業」への取組を通して

教頭として勤務した学校で「南予津波災害等自助・共助推進事業」の指定を受け、防災教育に本格的に関わりました。校区も平成30年西日本豪雨において大きな被害を受け、学校も避難所となりました。その翌年度のことでした。その時に新たに取り組んだことが「地域を巻き込んだ避難訓練」です。第一避難場所は公民館、第二避難場所は中学校とし、中学校までの避難訓練を公民館、保育所と連携をして行いました。公民館からは、地域の方と一緒に、中学校までの途中にある保育所では、6年生が保育園児の避難をサポートして中学校まで避難する計画を立てました。中学校では中学生が避難してくる小学生を体育館まで誘導します。実際、「小学生が保育園児を本当にサポートできるのか」など、課題は残りましたが、訓練の様子や感想から、助け合いを経験し、「自分たちの力が何らかの役に立つ」と感じている子供たちの姿は生きる力につながっていると感じました。

(2) 国土交通省大洲河川国道事務所との連携

大洲市教育委員会での指導主事の際には、大洲河川国道事務所が作成した「自然災害からくらしを守る」という風水害について学ぶ教材を活用した授業の推進に関わりました。大洲市の水害の様子や大洲市の防災の取組などが教材です。実際に活用する先生方の声を聞き、教材の改善に生かしたり、各小学校に活用を呼び掛けた

りました。多くの学校が教材を活用したり、大洲河川国道事務所と連携した授業を行ったりしました。その学習では、地域の消防団や自治会の方々と子供たちの関りが多く取り入れられており、子供たちは、多くの生きる力を地域の方々から学ぶことができていたようです。

3 今年度の防災への取組

(1) 地域との関わりを深めるために

「学校防災教育実践モデル地域研究事業」を実践するに当たって、まず考えたことが、いかに地域との関わりを深めるかということです。まずは、防災教育の指定を受けていることを自治会の会議に参加した際や地域の代表の方が来校された場合などに地域の方にお伝えしました。早速、地域にお住まいのJA愛媛たいきの女性部の方から、防災教育に協力したいと声を掛けていただきました。打合せを重ね「防災食づくり体験（５年生）」や「防災運動会（２年生）」など、アイデア豊かな防災教育を実施していただきました。また、大洲市女性消防団にも協力いただき、「こんなときどうする？」と題した１年生向けの演習を交えた防災教室を実施していただきました。学校だけでなく地域の方々も防災について知識や意識を高めようとしている姿を子供たちは感じ取ることができました。

(2) 関係機関との連携

大洲市教育委員会には、年間を通して多くの支援をいただきました。特に大きかったのが、窓口となって大洲河川国道事務所、愛媛県土木部、松山地方気象台などと繋げていただいたことです。大洲河川国道事務所は様々な防災のプログラムを準備されており、３年生から６年生が、出前授業を行っていただいたり、施設の見学・体験等をさせていただいたりしました。５年生は、愛媛県土木部の出前授業「木造住宅の耐震構造」を受講し、建物を耐震化することで救える命があることを講義や模型の製作などを通して学びました。６年生は松山地方気象台の見学を通して気象と災害の関連や災害情報の活用について学びました。様々な学習を通して、子供たちは、災害から自分の命を守るだけでなく、家族や地域の方々とどのように協力できるか、自分たちに何ができるかを考えることができました。

4 おわりに

本校児童は、様々な防災に関する学習を通して、意識・知識ともに高まってきています。実際に大きな災害が起こったときに大切なのは、自分の命を守ることです。そして、自分の命を守ることができた後は、「相手を思いやる心」とか「協力する実践力」などが大切になると思います。今年度の防災教育を通して、子供たちにもそのような生きる力が育ってきているように感じます。また、今回の事業の講師の方が言われた「防災教育は地域愛着の教育」という言葉が心に残っています。大きな災害をもたらす肱川ですが、本校区は、その肱川の恵みを受けている地域でもあります。今後も、地域の防災を学ぶ、地域の方々とともに学ぶことを通して、子供たちには防災の知識とともに、「ふるさと たいら」を大切に作る心を更に高めていきたいと思っています。